

# 常に挑戦する意識を



産業廃棄物処理業の中核を担う人材育成を目的に創設された「産業廃棄物処理経営塾」の太田文雄塾長が3月末で退任するのを記念して、先月25日、塾生OBなど関係者を集めた講演会が都内で開催された。講演の中で太田氏は、「常に挑戦する意識」が必要だとし、産業廃業が今後挑戦すべき

## 太田・産廃経営塾長退任を記念し講演会

こととして①情報収集②企画提案力の強化③信頼を得るための技術力④価格競争に打ち勝つためのコスト意識の強化⑤常に一歩前に行く行動力――の5点を挙げ、今後も努力を続けるよう塾生OBに訴えた。

太田氏は、1992年に塾の母体である産業廃棄物処理事業振興財団の理事長に就任。それ以前は、東芝で営業の第一線として活躍、副社長まで務めた。講演会では、休日返上で秋葉原や原宿を回りの消費者の関心や興味を探ったことを披露、産業廃業でも常に顧客ニーズをつかむための努力が必要だと述べた。

太田氏は、塾長退任と同時に財団の顧問からも退く。そこで講演会終了後は、場所を移して財団主催の「田ひ会」が開催された。各界から縁のある関係者が多数出席、太田氏の功績を称えるとともに長年の労をねぎらった。

太田氏は昨年、体調を崩したこともあって、今後は静養も兼ねて故郷の京都で過ごすという。